

名古屋市内で再発見されたニホンジカ *Cervus nippon* Temminck, 1838

野呂 達哉⁽¹⁾ 名和 明⁽²⁾

⁽¹⁾ なごや生物多様性センター 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地

⁽²⁾ 名古屋哺乳類研究会

Sika deer *Cervus nippon* Temminck, 1838 rediscovered in Nagoya, Aichi Prefecture, Japan

Tatsuya NORO⁽¹⁾ Akira NAWA⁽²⁾

⁽¹⁾ Nagoya Biodiversity Center, 5-230 Motoyagoto, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi 468-0066, Japan

⁽²⁾ Nagoya Society of Mammalogists

Correspondence:

Tatsuya NORO E-mail: shrew-mole@ace.ocn.ne.jp

名古屋市においてニホンジカ *Cervus nippon* は、江戸時代まで狩猟等の記録が残されており（名和・野呂, 2017）、かつては千種区や守山区、名東区などの東部丘陵地域に広く生息していたと考えられる。しかし、最近50年以上、市内での確実な確認例はないことから、名古屋市のレッドリストでは「絶滅 (EX)」として記載されている（織田・子安, 2010；名和・野呂, 2015）。

今回、名古屋市レッドリスト改定のための事前調査で、名古屋市の北東部に位置する東谷山（図1）の名古屋市域にセンサーカメラを設置したところ、2017年7月2日にオスのニホンジカ成獣が1個体撮影された（図2）。現時点では、市内においてメス個体や幼獣が撮影されておらず、繁殖の兆候は見られないが、今後、名古屋市近郊の春日井市や瀬戸市等から分散し、進出してくる可能性も考えられる。実際、なごや生物多様性保全活動協議会の動物部会が名城大学環境動物学研究室と共同で実施した調査では、名古屋市との境界域である春日井市玉野町の庄内川河畔林において、同年8月2日にメスと推測されるニホンジカが1個体撮影されている（図3）。この場所と東谷山は、間に庄内川、愛知環状鉄道線、国道155号といった動物にとっては移動の妨げになる障壁が存在するものの、直線距離でおよそ1.2 kmしか離れていないため、ニホンジカが移動できる範囲にあると考えられる。

ニホンジカが名古屋市内で繁殖し、個体数を増加させた場合、東部丘陵地域にわずかに残っている希少な植物群落への影響や農作物への被害、交通事故等による車両や人身への被害の発生が予想される。今後、東谷山地域と周辺の愛知県森林公園において継続的にニホンジカの生息状況をモニタリングしていく必要があるだろう。また、次回の名古屋市レッドリスト改定時には、ニホンジカについて「絶滅 (EX)」からカテゴリーの変更を検討する必要があるだろう。



図1. 東谷山の位置図。



図2. 東谷山（名古屋市守山区上志段味東谷）で撮影されたニホンジカのオス（2017年7月2日撮影）.



図3. 庄内川河畔林内（春日井市玉野町）で撮影されたニホンジカのメス（2017年8月2日撮影）.

引用文献

名和 明・野呂達哉. 2015. ニホンジカ *Cervus nippon* Temminck. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックなごや2015—動物編一, pp.33. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋.

名和 明・野呂達哉. 2017. 江戸時代尾張国における哺乳

類の文献記録. なごやの生物多様性, 4: 71-81.

織田銑一・子安和弘. 2010. ニホンジカ *Cervus nippon* Temminck. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックなごや2010—2004年版補遺一, pp.75. 名古屋市環境局環境都市推進部生物多様性企画室, 名古屋.